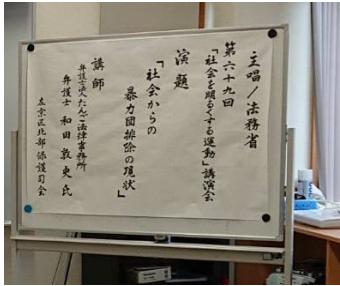


地域研修会開催報告書

幹事氏名 佐伯 知彦

開催年月日	令和元年7月5日（金） 午後7時30分～午後9時		
会場	市原野会館		
出席者	参加 保護司	山口正勝・村上ますみ・鞍谷秀郎・宮崎又行・鈴木美智子・和田敦史 佐伯知彦・久保優佳・松本加奈子	
	関係団体名と その人数	更生保護女性会・社会福祉協議会・防犯推進委員会・自治連合会・体育振興会 市原野小学校教頭・市原野小学校PTA・洛北中PTA・民生児童委員会・少年補導委員 交通安全会・静市交番・消防分団・自主防災会・市原野児童館・静原小学校校長 鞍馬地区各種団体・左京区はぐくみネットワーク・花背,別所各種団体・一般	計 66名 保護司 9名
テーマ	《社会からの暴力団排除の現状》		
研 修 内 容			
	<p>今年度の北部研修会では、昨年度より我々と同じく保護司となられ、暴力団排除運動の場でご活躍されている弁護士の和田敦史氏にご講演いただきました。講演は次の3つの疑問をテーマに、スライドで資料を指し示しながら進めていただきました。</p> <p>Q1. 「暴力団」とは何か？ Q2. 「暴力団」はなぜなくなるのか？ Q3. 「暴力団」をなくす方法はあるのか？</p> <p>まずQ1. 「暴力団」とは何か？ 「暴力団」とは都道府県公安委員会（警察）から暴力団指定を受けた団体であること。京都にも指定暴力団「会津小鉄会」があり、二人の七代目が存在。その間で現在も抗争が続いている。そしてその一つが左京区に事務所がある。 すると会場からも驚きや、「そうだった」というような声が上がっていました。 続いて、「暴力団」の成り立ち、歴史をお話しくださいました。</p> <p>まずは、「暴力団」の元となるのが「博徒集団」「的屋」「不良集団・愚連隊」。</p> <ul style="list-style-type: none">・「博徒集団」の歴史は古く、奈良時代の前の697年に、博徒の社会的蔓延による禁断令が出ている。・「的屋」は起こりについては諸説あるが、営業形態の簡易性などから満州事変から戦後の経済の混乱期に増加。露天商団体として組織化し、暴力組織化したものも出てきた。・「不良集団・愚連隊」は、明治頃主に都市部に発生した不良集団。やがて、昭和になって麻薬や売春などの経済基盤ができ愚連隊として組織化していった。		

研 修 内 容



Q2. 「暴力団」はなぜなくなるのか？
これには、次の3つのポイントがあげられる。

1. 暴力団の強固な組織力・豊富な資金源
2. 法制度の不備
3. 社会の側の希薄な問題意識

1については、一見1960年頃をピークに暴力団構成員、準構成員の数は減少し、勢力

減退しているように見える。しかし時代と共に犯罪形態が変わり、フロント企業を立てるなど組織実態が不透明化、なおかつ多角化、巧妙化し必ずしもそうとは限らない。

実際、平成元年頃の暴力団の収入額と平成26年頃の収入額は変わらないように見えるとのこと。

2については、現行の法制度では、構成員の行為などは規制できても、組織そのものの結社を規制するものではないことから。

3に繋がるが、「人間は暴力団員であっても平等である」や、昔から社会の中で共存してきている歴史があるため「共存関係を保っていく」という考え方がある。

また、「団体規制に対する強い抵抗感」というものが日本にはあるようで、これらにより、法整備の不備を招いている。との事でした。

最後に、Q3. 「暴力団」をなくす方法はあるのか？ 答えは 「あります」！
そのためには、

法整備につながる「それぞれの意識を変える」「どうすれば社会が変わるかという教育」、そして勢力衰退につながる「構成員になる道を選ばなくても生きていける社会保障」などが大切であるとの事でした。

続いて、質疑応答に入りました。

Q. 京都でも、麻薬犯罪の低年齢化が心配されているがこの点については？

A. 現在は売人と直接つながりがなくても、ネットで手に入れられる世の中である。そこが問題となっている。

など、子どもを取り巻く環境を心配する声が上がっていました。

今年のミニ集会では、お天気にも恵まれ大勢の方にご参加いただきました。また、地区外から「保護司会のHPを見た」とご参加いただいた方がいらっしゃいました。

左京区保護司会から4名の先生のご参加、そして和田先生にご講演いただきました事、感謝申し上げます。ありがとうございました。



研
修
内
容

その他の活動

—7月10日（水）：京都市立市原野小学校にてあいさつ運動に参加—

当日は、心配していたお天気も太陽が顔を出してくれるほどの天候となりました。PTA会長や、校長先生はじめ先生方と朝のあいさつ運動に「社明くん」と共に参加させていただきました。名札の効果が絶大で、みんな大きな声で読み上げてくれていました。ハイタッチして行く子もいれば、カバンを置いて戻ってくる子、抱き着いて離れがたそうにする子もいました。校長先生も、お願いに上がった時点で非常に喜んでいただいております。7月の行事予定にも掲載して下さっていました。毎月でも、毎日でもお待ちしております。と、うれしいお言葉をいただきました。



以上文責 松本加奈子